

事務事業名	飯塚新人音楽コンクール運営事業	事務事業No.	562 - 2
-------	-----------------	---------	---------

1. 基本情報

担当部	担当課	担当係	作成者職名	作成者氏名	所属長職名	所属長氏名
教育部	文化課	文化振興係	係長	今泉 真	文化課長	坂口 信治
施策体系	総合計画	政策	5	教育・文化		
		施策	6	文化芸術の創造		
		基本事業	2	文化・芸術活動の機会や場の充実		
	その他の計画	個別計画	飯塚市文化振興マスタープラン			
根拠法令・条例・要綱等	文化芸術振興基本法、飯塚市文化振興基本条例、飯塚市社会教育団体補助金等交付要綱					
事業開始年度	昭和57年度	事業終了年度	—	事務事業類型	ソフト事業	
実施手法	全部直営	補助金等の支給	補助金等あり	実施計画期間	—	

2. 事務事業の概要及び目的（決算成果説明書と連動）

概要	優れた新進演奏家の発掘育成と地域音楽文化の充実を図るため、ピアノ・声楽2部門の飯塚新人音楽コンクールを実施している。飯塚文化連盟を主管とし、飯塚市及び飯塚市教育委員会を含む7者を主催とし実施している。本市としては文化連盟に対する補助金の交付や企画会議への参画、広報、開催当日の市職員の動員等を行い、運営に対して支援を行っている。					
対象	働きかける相手・もの	・飯塚文化連盟 ・全国各地の新進演奏家				
手段	方法・働きかけ（活動指標）	補助金の交付、会議への参画、広報活動、国県への伝達、当日の市職員の動員等の支援を行う。				
意図	対象をどのようにしたいか（成果指標）	新進演奏家の発掘育成の推進及び地域音楽文化のさらなる充実を図る。				

3. 活動指標（決算成果説明書と連動）

指標名	単位	指標の説明（算式等）	前年度実績	本年度実績	次年度見込
会議への参加回数	回	事業の実施に係る飯塚文化連盟の会議への参加回数	6	6	6
広報活動実施回数	回	市報、HPへの掲載、のぼり旗設置等の広報活動実施回数	6	6	6
開催当日の市職員動員人数	人	開催当日の市職員動員人数	20	30	30

4. 成果指標（決算成果説明書と連動）

指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
予選応募者数	人	90	90	90	90
	方向性	達成目標年度	実績	102	70
	維持	毎年度	達成率	113.33%	77.78%
コンクール会場入場者数	人	1500	1500	1500	1500
	方向性	達成目標年度	実績	0	503
	維持	毎年度	達成率	0.00%	33.53%
指標	単位	達成目標値	前年度実績	本年度実績	次年度見込
説明	方向性	達成目標年度	実績		
	維持	毎年度	達成率	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 事務事業実施にかかるコスト（決算成果説明書と連動）

経費区分	一般会計	経常経費	特別会計	—	
予算科目・事業	会計	1 一般会計	款	10 教育費	
	大	7 文化振興事業費	中	3 飯塚新人音楽コンクール運営費	
			目	1 社会教育総務費	
投入人員 (当該事務事業に対して1年間に投入した人員)	(R2以降)	前年度実績実績(千円)	本年度実績(千円)	増減理由(10%以上の場合)	次年度予算(千円)
	正職員	0.29 人 2,377	0.34 人 2,655	新型コロナウイルス感染症対策のため、映像配信にかかる費用を補助金として支出したため。	0.34 人 2,655
	任期付職員(保育士)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	任期付職員(子ども家庭支援員)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	任期付職員(CW・水質)	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	再任用フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	再任用短	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	会計年度 1級フル	0.00 人 0	0.00 人 0		0.00 人 0
	1級パート	0.00 人 0	0.16 人 318		0.16 人 318
	2級パート	0.15 人 395	0.00 人 0		0.00 人 0
人件費計(A)	2,772	2,973	2,973		
事業費	直接事業費(B)	1,449	2,036	1,064	
	総事業費(A+B)	4,221	5,009	4,037	
直接事業費のうち の主な歳出内訳	負担金補助及び交付金	1,350	1,950	950	
	報償費	81	82	92	
財源内訳	使用料・手数料(受益者負担分)	0	0	0	
	国・県支出金	0	0	0	
	市債	0	0	0	
	一般財源	4,221	5,009	4,037	
	その他()				

6. 事務事業の事後評価★

評価視点	評価項目	評価	評価の理由、または認識している課題を記載
妥当性 評価 (上位施策/ 成果)	市の関与の妥当性	妥当	行政も主催者のため。
	目的の妥当性	妥当	飯塚市の文化芸術を振興している。
	対象(受益者)の妥当性	妥当	全額事業費に充てられており、団体に受益が偏っていることは無い。
効率性 評価 (活動量/ コスト)	コスト削減・コスト効率化	余地なし	行政も主催者であり実施団体と協働で行っており、省力化によりコンクールの質を落とすことはできないので、現状以上にはできない。
	負担割合の適正化	適正	市としては事業の実施に必要な補助金や、市長賞、教育委員会賞のトロフィー代を市の予算として計上しており、適正と言える。
	手段の最適性	最適	地域音楽文化の向上に寄与している。
有効性 評価 (成果/ 活動量)	目標達成度	達成	コロナ禍に対応した方法により実施をすることができた。
	上位施策への貢献度	貢献できた	飯塚市の文化芸術を振興している。
	事業継続の有効性	ある	新進演奏家の登竜門として全国的に認知度も高いため、飯塚市の文化振興に寄与する事業としてだけでなく、飯塚市をPRできる事業として今後も継続する必要がある。

7. 前年度評価時の計画と実績

前年度評価★		前年度記載した改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★	
評価区分	方向性	次年度以降に予算(コスト)を必要とせず、直ちに実施できる改善策	飯塚文化連盟と協働で実施する事業であるため、密に連携を取りながら事業の準備、運営を進める。また、引き続きコロナ禍に応じた実施方法を検討する。
一次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持	次年度以降に予算(コスト)増を必要とし、中長期的に実施する改善策	

前年度改善策に対する実績 ★ ※上記の改善策に対して今年度実施できたこと、などを記入

新たな周知方法を取り入れることはできなかったが、実施主管である飯塚文化連盟と連携、情報共有しつつ市報・HPへの記事掲載、のぼり旗や立て看板の設置等による広報活動に努めることができた。

8. 今年度評価における成果と課題(決算成果説明書と連動)★

【成果】 コロナ禍のため、予選は令和3年度と同様映像(DVD)審査としたが、本選は2年ぶりの有観客で開催した。本選は、コンクール初となる映像配信も実施し、飯塚新人音楽コンクールの啓発につなげることができた。

【課題】 令和5年度の開催については、コロナ情勢に留意しつつではあるが、予選も本選もコロナ前の実施方法に戻す予定である。この場合、ボランティアスタッフの高齢化が進んでいるため、コロナ前のように有観客で、なおかつ表彰式や出場者のリハーサルも実施することとなり、人員の確保が課題となる。

9. 今後の事業の方向性と改善策

成果の方向性	拡充	④ ② ①			評価区分	事務事業の方向性
	現状維持	③ ⑤				
縮小	⑥			二次評価	⑤コスト・成果ともに現状維持	
休・廃止	⑦					
コスト投入の方向性						
休・廃止 縮小 現状維持 拡充						

次年度以降の改善策(課題解決や改革・改善に向けて、予算を含めた具体的な方策)★

コスト(人・予算等)を必要とせず、ただちに実施できる改善策 飯塚文化連盟と協働で実施する事業であるため、密に連携を取りながら事業の準備、運営を進める。また、実施方法については、可能な限りコロナ前の方法にすることを検討する。

コスト(人・予算等)を必要とし、中長期的に実施する改善策 -

評価変更理由 一次評価のとおりとする。ただし、市の役割(関わり方)は何かをしっかりと交通整理し活動指標、成果目標の記載に工夫をすること。